

# 1-① 共同利用スペースの確保による人材養成機能の向上

## 施設整備の目的

柔軟に教育研究を展開するため、施設の高機能化や弾力的な共同利用スペースを創出

## 整備前の課題

### 部屋の配置が非効率

- 講座・分野ごとに研究室が固定され、講義室や実験室が点在するなど、**部屋の配置が非効率**
- 教育研究分野ごとに利用空間が分断され、**分野を超えた教育研究の連携や活性化が困難**

### スペースの不足、機能劣化

- 教育研究組織の改組、少人数教育、プロジェクト研究等の**新たな取り組みに対応可能なスペースが不足**
- 老朽化に伴う講義室の機能劣化、適切な温熱環境を確保する機能の不足



若手研究者のためのスペースが不足

## 課題の解決

### スペースの適切な配置

- スペースの割り振りを見直し、**共同利用スペース**（競争的スペース、共有スペース）、**若手研究者のための研究環境や新たな取り組みに対応可能なスペースを確保**
- 空間を**オフィスゾーン**と**ラボラトリーゾーン**に分離し、流動的な教員配置や学生数の増減に応じて**スペースを弾力的に利用**できるよう配慮

### 快適なキャンパス環境の整備

- 建物周辺の屋外環境整備をあわせて実施し、調和の取れたキャンパス環境を実現
- 老朽化した設備を省エネルギー機器へ更新し快適な教育研究環境を確保するとともに地球温暖化対策を実施



若手研究者等のスペースが充実

### コミュニケーションスペースの整備

- 教員用オフィスに加え**コモンオフィス**、**学生ルーム**を整備し、異分野の研究者の交流を促進、学生の学習環境が改善

### 柔軟に利用できる講義室の整備

- 可動間仕切によって広さが変更可能な講義室を整備し、少人数教育にも対応するなど、**利用者数に合わせて柔軟に利用可能な空間を確保**



調和の取れたキャンパス環境と教育・研究活動のスペースの確保

## 整備による教育研究への効果

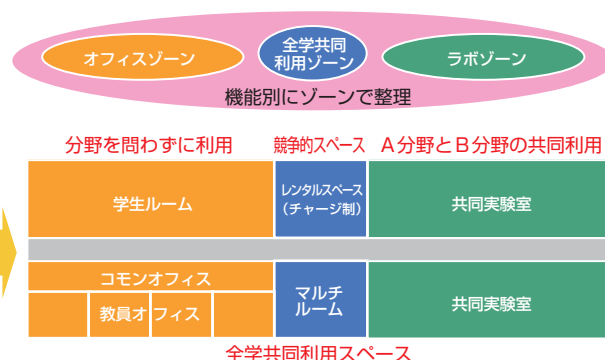
### 共同利用スペースの確保による人材養成機能の向上

- 共同利用スペースを多く整備したことにより若手研究者等のためのスペースが確保され、**人材養成機能が向上**。コモンオフィス、学生ルームでは**異分野の研究者・学生のコミュニケーションが促進**されるなど、**教育研究活動の活性化に寄与**
- 競争的スペースにスペースチャージ制を導入し、スペースの効率的利用を更に促進



コモンオフィスでの教育研究活動

講座ごとにスペースが固定され、空間利用が非効率



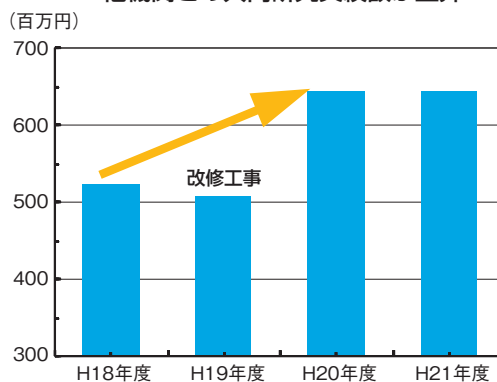
### 共同研究の活性化

- 共同利用スペースや共同実験室の整備により、新たな研究に取組むスペースが確保され、**共同研究が増加**するなど研究活動が活発化



競争的スペース、共同実験室などの研究スペースが充実

#### 他機関との共同研究実績額が上昇

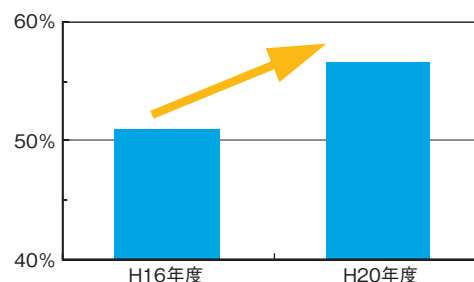


### 講義室の平均稼働率の上昇

- 老朽による機能劣化が改善され、平成19年度の改修後、**講義室の平均稼働率が上昇傾向**。柔軟に講義室を利用し、スペースの有効活用が可能な体制が構築されつつある。

- ・平均稼働率  
平成16年度 51% → 平成20年度 57%

#### 講義室の稼働率が上昇傾向



# 1-② 学術情報基盤の強化による教育研究活動の活性化

## 施設整備の目的

耐震性の確保とともに、教育研究活動を支援する総合情報メディアセンター・図書館を整備

## 整備前の課題

### 施設の老朽化・陳腐化

- 耐震性が低く、空調設備の老朽化も進んでいるため、**安全で快適な環境の確保が困難**
- 諸室の配置が非効率的になっており、**使い勝手が悪い**

### 新たな取組への機能不足

- 課題探求・問題解決型学習を支援するスペースが不足
- 教育改革を具現化するため、情報化への対応など**図書館機能と情報基盤機能の強化が必要**



情報化などに対応するスペースが不足

## 課題の解決

### 老朽対策の実施

- 耐震改修とともに、バリアフリー化を図るなど**安全・安心な教育研究環境を確保**
- 老朽化した空調設備を改修し、**快適な室内環境を確保**

### 新たなスペースの創出・利便性の向上

- 空調方式の変更に伴い不要となった**空調機械室を改修し、新たに書庫を確保**
- 閲覧室などの配置を見直し、図書館としての利便性を向上

### 学術情報基盤の強化

- 図書館と情報メディアセンターを融合させ、**学術情報基盤を強化**
- 情報収集の拠点として、学生が自由に利用可能な**ラーニングルームを設置**
- 閲覧スペース、自主学習用のグループ学習室、視聴覚コーナー等の整備により**図書館での学習機能を充実**
- 学生・研究者の交流を促す**コミュニケーションスペース・リフレッシュコーナーを整備**



学術情報基盤を強化した図書館



利用者の交流を促すコミュニケーションスペースを充実



## 整備による教育研究への効果

### 学術情報基盤の強化による学習効果の向上

- グループ学習室やラーニングルーム等の様々なスペースを整備したことにより、課題探求・問題解決型学習を強力に支援
- グループ学習室を設置したことで、図書館内での少人数のディスカッションが可能になり、学習効果が向上
- ラーニングルームの設置により、情報環境が充実しコンピュータを活用しながらの学術情報収集・整理等が可能となり、利便性・学習効率が向上
- 閲覧スペース等の静寂な空間とともに、コミュニケーションスペースを充実させたことで、長時間滞在に適した環境となり、利用者のニーズに合った利用が可能
- 学術情報基盤としての機能を充実したことにより、快適な学習環境が整備され、学生の意欲的な学習に応えることが可能となり、入館者数とともに図書の出し冊数が増加



明るく快適な閲覧スペース



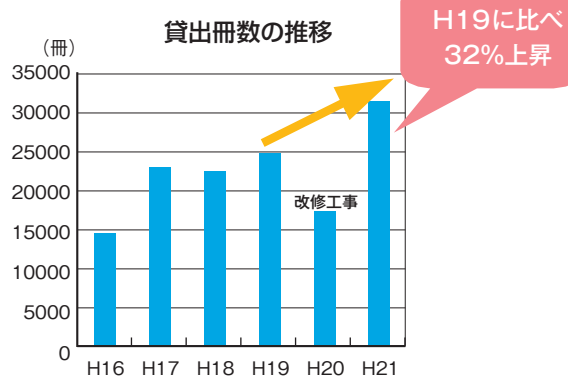
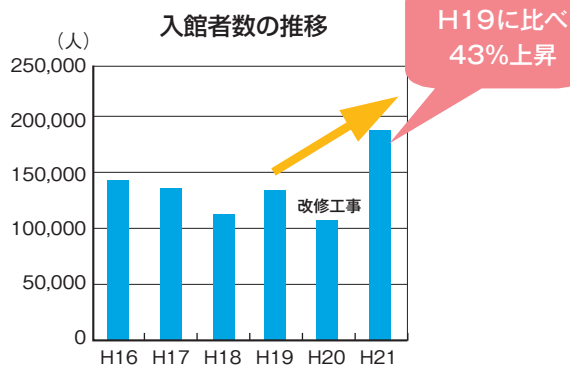
グループディスカッションが可能な学習室



パソコン42台を設置したラーニングルーム



電動集密書架を設置、蔵書の増加に対応



## 施設整備の目的

高度化・複雑化する医療現場に適応できる優れた医療技術者を育成するため、安全で高機能な教育環境を整備

## 整備前の課題

### 老朽対策が必要

- 耐震性が低く、安全性の確保が必要
- 建築後46年経過し老朽化が著しく、漏水が頻繁に発生し教育研究に支障

### 新たな教育研究のための基盤が不足

- 高度な医療技術者の育成のために必要な教育研究スペースが不足
- 実習機器の老朽化が著しく、スペース不足のため新たな機器の導入が困難であり教育研究活動に支障



外壁の劣化による雨水侵入等、教育研究に支障

## 課題の解決

### 安全・安心な教育研究環境の確保

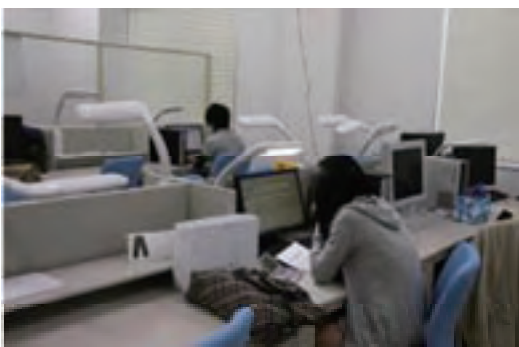
- 耐震化を含む老朽改修を実施し、安全・安心な教育研究環境を確保

### 新たな教育研究に適応した環境を整備

- 研究分野ごとにスペースを見直し、実習室や研究室を集約し捻出したスペースに大学院学生の研究室・実験室を整備
- 重量が大きい機器の設置も対応可能な構造設計とし、高度な実験・実習に対応するため老朽化した電気設備や空調設備等も改善
- 情報処理室を整備し、ITを活用した教育研究環境を充実



大学院生の研究室等を整備し、教育研究が活性化



ITを活用し自主学習ができる情報処理室



耐震化・老朽改修により、安全で快適な教育研究環境を確保

## 整備による教育研究への効果

### 実践的な教育の実現

- CT(X線コンピュータ断層撮影)、MRI(磁気共鳴画像装置)を設置したことにより、**学生実習において実際の医療現場と同様の医療機器を操作でき、より実践的な教育が可能**
- 高度な専門知識を得た**学生の国家資格の取得が進み、第一種放射線取扱主任者試験の合格者数は例年1～3名程度から平成20年度以降は毎年15名程度に上昇**
- 法医学分野と協力して法医解剖前画像診断を行うことが可能となり、**新たな研究分野での成果創出が期待**
- 大学病院スタッフとの研究会の開催が、例年10件程度から整備後は年間20件程度に増加するなど活動が活発化し、**人材育成機能が向上**
- 学外の研究者による講義や講演が、**例年8件程度から年間15件程度に増加し、研究交流が活性化**



病院と同様の医療機器を使用した実践的な教育を展開

### オープンキャンパスの満足度が向上

- オープンキャンパスの参加者数が増加しており、施設が充実したことなどによりオープンキャンパスに参加する**高校生の満足度が向上**



オープンキャンパスでの高校生と在学生の懇談



オープンキャンパスでの実習体験



# 1-④ 多様なスペースの確保による実践的教員養成の実現

## 施設整備の目的

教職大学院等への対応、教員志望学生と地域の子どもが共に学ぶ実践的教育環境を創出

## 整備前の課題

### 多目的な利用が困難

- 大空間を利用した講義や、教職大学院の研究成果報告集会、教員免許更新の合同講習受講等に対応可能なスペースが不足
- 実践的教員養成の一環として地域の子どもを対象とする事業を展開するためのスペースが分散しており、参加する子どもの安全やセキュリティの確保が不十分
- 用途に応じて柔軟に活用可能な教育研究スペースが不足
- 自主学习スペース等の学生のためのアメニティスペースが不足



多目的な活動のためのスペースが不足

## 課題の解決

### 柔軟に利用可能なスペースの確保

- 少人数教育や大人数での研究活動発表会など、多様な用途に対応可能な共同利用スペースを確保
- 講義室を多目的に利用可能なスペースとして整備することで、教職大学院や教員免許更新制への対応が可能な「新しい学びゾーン」を確保

### 教育研究環境の充実

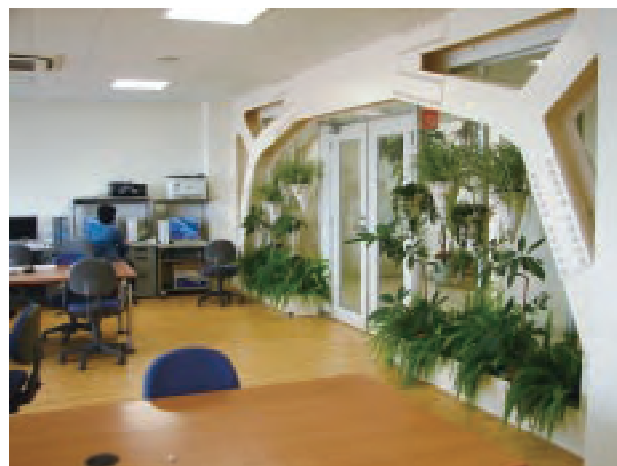
- 研究室ゾーンは、よりよい室内空間となるよう、フロアごとに管理責任者となる教員を決め、オリジナリティあふれる快適な教育研究スペースを創出
- 研究スペースの一角に、多様な用途に対応するコラボレーションホールを整備
- 廊下と研究室の間をガラスで仕切り、境界を感じさせない開放感とともに教育研究活動の透明性、研究者等の交流促進を実現



柔軟に活用可能なコラボレーションホール

### 安全・安心な空間の確保

- 多目的室、共同調理実習室、チャイルドルーム等で構成される「子どもの学びゾーン」を確保
- 200～300名の子どもたちと100名の学生が互いに学びあう活動にも対応でき、活動スペースを集約することでセキュリティ面にも配慮

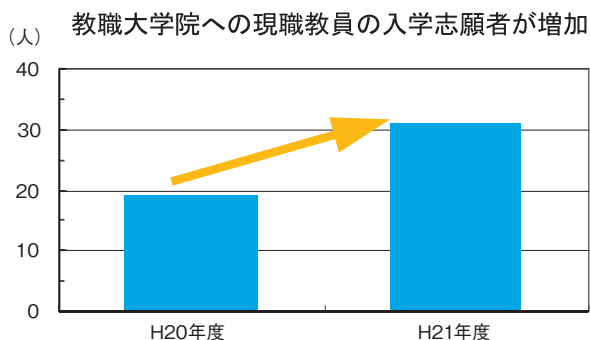


耐震性の確保とともに快適な室内環境を創出

## 整備による教育研究への効果

### 実践的な教員養成のための教育研究が実現

- 通常カリキュラムの講義のほか、教育研究活動報告会、教員免許更新制への対応、現職教員や教職大学院等の学生、研究者が実践教育を意見交換するなど様々な活動を実施
- コラボレーションホールでは、80人程度のシンポジウム、複数の小グループによるディスカッション、大学院生の演習等の多様な教育研究活動を展開
- 快適な学習環境が確保されたことにより、学部学生・大学院生の滞在時間が延びるなど教育研究活動が活性化



教職大学院の活動を展示



学生・研究者・現職教員の実践教育活動を支援



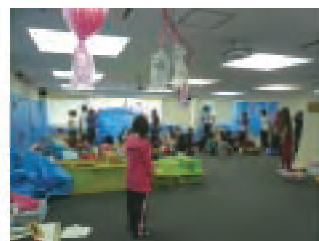
少人数の講義やグループ・ディスカッションにも対応可能なコラボレーションホール

### 地域貢献を兼ねた実践教育の更なる推進

- 「子どもの学びゾーン」において、実践的教員養成の一環として地域の子どもを対象とした活動を展開
- 教員志望学生の教育とともに、市内の不登校児童・生徒数が減少するなど地域の子どもたちの活動を支援
  - ・探求ネットワーク事業  
(子どもの主体的な活動を支援)
  - ・ライフパートナー事業  
(学生が不登校児の家庭や相談室等に出かけ、ともに話し遊び学習の援助者になる活動)
- チャイルドルームでは、ライフパートナー事業の一環で、不登校発達障害児等の支援活動として、週2回教育相談を実施するなど成果をあげており、今後、一層の地域貢献が期待される



<探求ネットワーク事業> 子どもたちの創造的な学びを支援



<ライフパートナー事業> 障害のある子どもたちとともに活動